

破傷風の感染予防

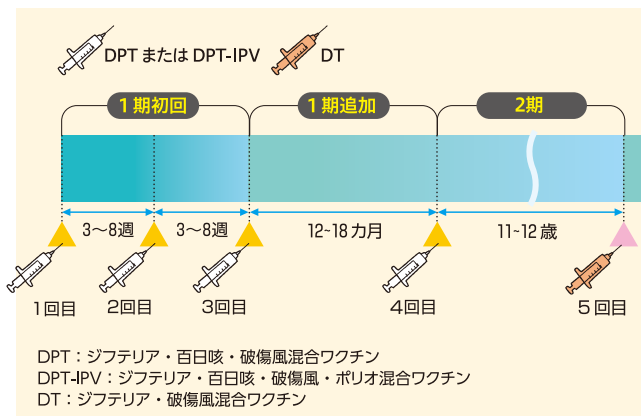
予防接種

破傷風の感染を防ぐには、なによりも予防接種が大切であり、下記のスケジュールで予防接種を受け、その後も定期的に追加接種をすることが望ましいと考えられています。接種回数や接種期間など、医師の指示どおりに行わなければ予防効果が確立しないことがあります。

〔1期〕 初回接種については生後3ヵ月～12ヵ月の期間に20～56日までの間隔をおいて3回、追加接種については3回目の接種を行ってから6ヵ月以上の間隔（標準的には12ヵ月～18ヵ月の間隔）をおいて1回の接種を行います。

〔2期〕 11～12歳の期間に1回の接種を行います。

■ 予防接種のスケジュール(例)



日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール 2018年8月1日版より

破傷風予防接種の 対象となる成人の方

- 昭和42年以前に生まれた方
- 10年以上、追加接種を行っていない方
- 長期海外赴任、途上国への渡航を予定している方



上記にあたる方は保健所あるいは医療機関にご相談ください。

受傷後の処置

創傷部位の迅速・十分な洗浄、死滅した皮膚組織の切除、必要に応じた破傷風感染予防などの適切な処置をすることにより、感染率を低くすることができます。



■ 受傷後の破傷風感染予防投与
スケジュール通りの予防接種終了後10年以内または追加接種後10年以内の場合は、創傷に関わらず基本的に予防は不要です。

スケジュール通りの予防接種終了後10年超経過	〈低リスク創傷〉 破傷風トキソイド(ワクチン)*を受傷直後に1回投与する。 〈高リスク創傷〉 上段に加えて、発症予防として抗破傷風人免疫グロブリン**投与を考慮する。
スケジュール通りの予防接種未完成または不明	〈低リスク創傷〉 破傷風トキソイド(ワクチン)*を受傷直後と1ヵ月後、6ヵ月以降の3回投与する。 〈高リスク創傷〉 上段に加えて、発症予防として抗破傷風人免疫グロブリン**を投与する。

低リスク創傷：きれいまたは小さい傷の場合
高リスク創傷：上記以外の全ての創傷

* 破傷風トキソイド：破傷風菌が出す毒素を無毒化したワクチンで、破傷風の免疫を作り発症予防します。

** 抗破傷風人免疫グロブリン：破傷風菌の出す毒素を中和するお薬で、発症予防や症状軽減のための治療に用いられます。副作用として、発熱、頭が重い、嘔吐、かゆみ、顔面潮紅、局所性浮腫、発疹などやまれにショックが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

● 医療機関名

予防接種のお問い合わせは当院までご連絡ください。

JB 一般社団法人
日本血液製剤機構

BS-TBL-001B-
2020年1月作成
審J191226

テタノブリン・テタノブリンIHを
使用される患者様とご家族の方へ

日常生活に潜む は しょう ふう 破傷風

あなたはいつ、 破傷風の予防接種をしましたか？

ガーデニングや家庭菜園が大好きなあなた
スポーツが大好きなあなた
でも、野外活動には
大きな落とし穴があるかもしれません。



監修

国立国際医療研究センター病院 (NCGM)
救命救急センター・救急科 診療科長

佐々木 亮 先生

破傷風の正体



破傷風は土壌に広く生息する破傷風菌による感染症です。

動物の腸の中や糞にも存在します。

破傷風菌は強力な神経毒素を産生し、中枢神経を侵し命に関わる症状を引き起こします。特に野外活動が増える季節に多くみられます。

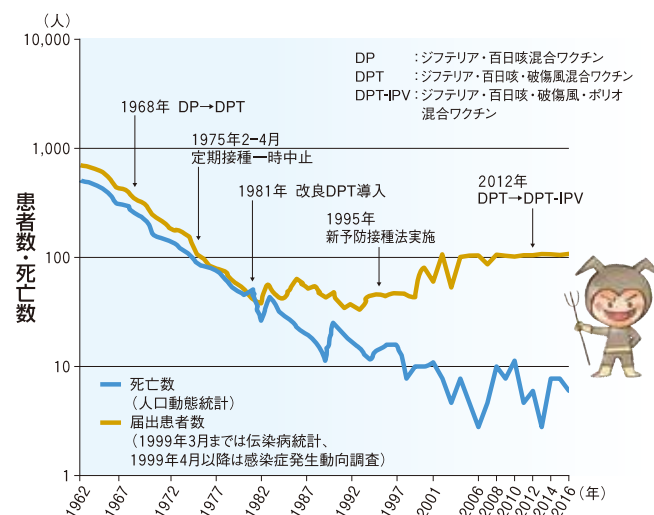
破傷風の怖さ

破傷風菌に感染すると、約80%の患者さんに全身的症状(けいれん、呼吸困難、脳炎など)がみられ、非常に危険な状態になります。そのため、適切な集中治療が必要で、今も死亡率の高い病気です。



破傷風患者は減ってはいません

予防接種の普及により患者数は減少しましたが、破傷風は撲滅されておらず、近年120名前後で推移しています。また、患者さんの多くが60歳以上の成人です。



破傷風菌は傷から侵入

- さびた釘が刺さった、
- グラウンドで転んで皮膚を擦りむいた、
- 傷があるのに砂いじりをした、
- 動物にかまれた場合など、

破傷風菌は傷口から侵入します。

破傷風菌は小さな傷からでも侵入し、中には傷が見当たらないのに感染する場合があります。

極めて少ない量の菌でも侵入して増殖すれば容易に発病します。



破傷風の発病と治療

発病

破傷風は症状があらわれると病状の悪化が速いので、傷を受けて3~21日後に次の症状がみられたら、すぐに医療機関を受診してください。

- 食べ物をよくこぼす、飲み込みにくい
- 舌がもつれる、口が開きにくい
- 体がだるい、全身の違和感
- 首・四肢のけいれん、こわばり



治療

発症後数日以内に非常に危険な状態になるため、入院が必要となります。

破傷風治療に用いるお薬(抗破傷風人免疫グロブリン)は発病初期に効果が発揮されるため、早めの治療開始が求められます。

治療の経過が良好であっても、すべての症状が消えるまでには、数ヵ月を要します。

